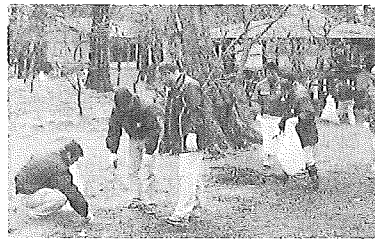


各企業の社会貢献

宮坂建設工業グループが神社清掃
恩返しの気持ち込め作業
安全祈願、入魂式も挙行



このあと、グループに分かれて参道や境内を清掃。ごみや枯れ枝のほか、どん

と焼きで出た大量の灰をゴミ袋に詰めていた。写真
上。一方、清掃活動後には安全祈願、入魂式を挙行。帯広神社で行われた安全祈願では、宮司による祝詞奏上などのあと宮坂社長「写真下」があいさつ。「我々は目に見えないもの、安全な目に見えないものを常に意識して仕事に取り組んでい



る。神仏に守られているという考えは、建設業の特徴といえる」と述べることも、「連休もあけ、いよいよ本番に突入する。気持ち新たにひと踏ん張りして新たなひとと張り上げていきたい」と、新たな決意のもと、無事故・無災害でことし一年を乗り越えるよう呼びかけた。

【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）をはじめとする宮坂建設工業グループは十二日、帯広神社と護国神社の清掃奉仕活動を展開。地域への恩返しの気持ちを込め、約二百人がごみや枯れ枝などを拾い集めた。

地域貢献の一環として七年から実施しているもので、今回が十八回目。宮坂建設工業、（株）平田建設、（株）寿エンジニアのほか、初めて（株）松本組の役員も参加した。

作業開始を前に、有川進副社長があいさつ。「地域と共生し、支えてもらいながらの報恩感謝の九十年。きょうは心を込めた活動を」と参加者に呼びかけ

北海道建設新聞 2012年(平成24年)5月17日(木曜日)

帯広神社などで境内のごみ拾い

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は十二日、帯広神社と十勝護国神社で清掃奉仕活動をした。グループ会社を含め約200人が参加し、境内のごみを拾い集めた。写真。

1995年から始め、18回目となる恒例行事。有川進副社長は、同社がことし創業90周年を迎えることなどに触れ、「地域の皆さんのために心を込めてきれいにしてほしい」と呼び掛けた。



参加者は、参道など敷地内に散らばっていたごみや枯れ枝のほか、どんと焼きで出た灰を袋詰めした。終了後は、帯広神社の神殿で安全祈願祭を実施し、ことし一年の無事故無災害を祈願した。